

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2018.7) 平成29年度:77.

生活に制約を感じている糖尿病患者へのセルフケア確立へ向けた看護支援

平間 幸子, 金 絵理

## 生活に制約を感じている糖尿病患者へのセルフケア確立へ向けた看護支援

旭川医科大学病院 7階東ナースステーション

○平間幸子 金絵理

### 【はじめに】

今回、SAP療法を導入し、患者の生活や疾患治療への思いを傾聴しながら、生活を振り返り患者と看護計画協働立案を実施した。その結果、セルフケアが獲得され、制約感から解放された患者を通して得られた看護支援について報告する。

### 【事例紹介】

A氏、60歳代男性、会社役員。運動を趣味とし海外でゴルフを行う。2型糖尿病で罹病期間20年、インスリン分泌枯渇で強化インスリン療法を行っていたが、暁現象著明で、低血糖も頻回に認めSAP導入目的にて入院となった。

### 【倫理的配慮】

倫理委員会で承認を得た同意説明文書を用い、研究の主旨を書面と口頭で説明し本人の承諾を得た。

### 【看護の実際】

A氏は、仕事や趣味など多彩な生活を送っていた。また、低血糖による死の恐怖心がありインスリン治療に合わせた生活を送ることに制約感を抱いていた。

看護師はA氏と看護計画協働立案し目標を考

えていった。A氏は好奇心があり、積極的に実施するという強みがあった。強みを生かしつつ、スモールステップで実施し、「できる」という成功体験を積み重ねていく支援を行った。A氏と共に生活習慣を振り返り、血糖パターンマネジメントを実施していった。海外旅行時の時差に合わせた基礎レートの変更、運動時の一時基礎レートの使用、カーボカウントの実施といった手技が獲得された。また、A氏は治療を十分に理解し、実践方法を生活に沿って具体化することで生活に潤いやゆとりができる幸福感を示した。

### 【考察】

内海は「患者がもつ制約感と制約感を起こしている原因に着目し、思いを傾聴することで、制約感を軽減する糸口や改善策が見えてくる。」と述べている。看護師はA氏の疾患治療への思いを聞き、生活を細かく振り返ることで、制約感を起こしている問題に着目できたと考える。A氏と共に看護計画協働立案し、スモールステップで目標を設定し、「できる」という自信となり、血糖パターンマネジメント実施へ繋がったと考える。